

青函連絡船戦災の碑



基本情報

所在地：青森港・青函連絡船八甲田丸の南側
 住所：青森県青森市柳川1
 (JR青森駅 徒歩5分)
 連絡先：青森空襲を記録する会 017-777-6200
 建立者：青森戦災・空襲六〇周年事業実行委員会
 建立年：平成17年7月14日

碑文

青函連絡船戦災の碑

青函連絡船は、青函トンネルの完成により廃止されましたが、八〇年の歴史の中で、「戦災」の悲劇を忘れ去ることはできません。

第二次世界大戦末期の、一九四五年(昭和二〇年)七月一四日、米海軍艦載機の攻撃により、物流の大動脈であった青函連絡船「翔鳳丸」「飛鷺丸」「第二青函丸」「第六青函丸」が、八月一〇日には「亜庭丸」が青森湾で撃沈され、一三一名の犠牲者を出しました。この中に、函館船員養成所大沼分所の生徒一四名(当時一四、五歳)がおり、悲しみを一層大きくしました。

また、七月一四・一五日に津軽海峡と函館湾でも攻撃を受け、青函連絡船は全滅をし、乗員乗客四二四名の尊い人命が失われました。

今も、津軽海峡には「津軽丸」「第三青函丸」「第四青函丸」が、この航路に殉じた人々と共に、永久の眠りにについています。

青森市民の目前で繰り広げられた、悲惨で残酷な空襲・戦災から六〇年を経ましたが、今では、当時の惨状を止めるものはなく、人々の記憶からも薄れ、知らない世代が増え、風化されつつあります。

青函連絡船戦災から六〇年目にあたり、この悲劇を歴史に止め、語り継ぐとともに犠牲となられた方々のご冥福と平和を衷心より祈念し、この碑を建立いたしました。

二〇〇五年(平成一七年)七月一四日
 六〇年目の空襲・戦災の日に

青函連絡船戦災犠牲者追悼・平和祈念の集い



開催概要 (平成22年度)

歳時名：青函連絡船戦災犠牲者追悼・平和祈念の集い
 会場：青森港・青函連絡船八甲田丸の南側
 (JR青森駅 徒歩5分)
 日時：平成22年7月14日(水) ※例年7月14日および28日開催
 参列者数：約50人
 連絡先：青森空襲を記録する会 017-777-6200

式次第 (平成22年度)

1. 開 会
2. 黙 祷
3. 主催者挨拶
4. 来賓ご挨拶…青森市長、青函連絡船戦災者遺族代表
5. 折鶴献呈…主催者、ご来賓、ご出席者
6. 閉 会

式 辞 (平成22年度)

「青函連絡船戦災犠牲者追悼・平和祈念の集い」が開催されますことを心からお喜び申し上げます。

ここにございます「青函連絡船戦災の碑」は、青森空襲を記録する会の皆様を始めとする青森戦災60周年事業実行委員会の皆様のご尽力と、平和の尊さについて多くの市民の皆様からのご賛同やご協力のもと、平成17年7月にまさに全市民的な取り組みとして、建立されたものであります。

本日は、この碑の前におきまして、戦災により亡くなられた方々のご冥福と恒久平和を祈念すると共に、青森空襲の風化を防ぎ、次代の人々に語り継ぎ、歴史に留め続けることを心から願い、このような集いを開催されますことは、誠に意義深いものと存じます。

青函連絡船は、明治41年比羅夫丸の就航により開業し、その後、田村丸と続き、大正13年5月には、翔鳳丸が就航しております。

この翔鳳丸の爆撃を受けている姿が、石碑の前面中央に配置されておりますが、終戦直前の昭和20年7月14日、米軍の航空母艦から発進した艦載機が、大編隊で北海道の各港湾と青函連絡船を襲撃、8月10日に空襲もあり、青函連絡船13隻が全滅し多くの尊い命が犠牲となりました。

歳月が経つにつれ、先の大戦の悲惨な様子は、記憶から薄れて参りますことは否めませんが、この平和な時代にあつてこそ、戦争の悲惨さと、そこに幾多の尊い犠牲があつたことを後世に語り継いで行くことが、現代に生きる私たちの使命と考えます。

本集いの開催など、ご尽力賜りました青森空襲を記録する会の皆様による平和を願い、命の尊さを後世に語り継ぐ日頃の活動に対し、心から敬意を表しますと共に、本会のご発展と本日ご出席の皆様方のご健勝ご活躍を祈念申し上げ、あいさつとさせていただきます。

平成22年7月14日
 青森市長 鹿内 博

青森市戦没者慰霊祭



※写真提供 青森市

開催概要 (平成22年度)

歳時名：青森市戦没者慰霊祭 ※一般戦災死没者を含む
 会場：県民福祉プラザ 県民ホール
 (JR青森駅より青森市交通 バス停「働く女性の家前」下車 徒歩1分)
 日時：平成22年7月28日(水) ※例年7月28日開催
 参加者数：220人
 連絡先：青森市 総務課 017-734-1111 (代表)

式次第 (平成22年度)

1. 開 式
2. 市民歌斉唱…青森市立南中学校合唱部
3. 黙 禱
4. 主催者追悼の…青森市長、青森市議会議長
ことば
5. 来賓追悼の…青森県知事、慰霊祭参加者代表(青森市遺族会会長)
ことば
6. 献 花…青森市長、青森市議会議長、青森県知事、青森県議会議長、青森市選出国議員、青森市町会連合会会長、青森県遺族連合名誉会長、青森県遺族連合会長、青森市遺族会会長、浪岡遺族会会長、青森平和記念像管理財団理事長、青森市戦災者遺族会会長、青森空襲を記録する会会長、英霊にこたえる会青森県本部会長、青森市副市長、青森市浪岡区長
7. 追悼合唱…青森市立南中学校合唱部 2曲(春の小川、茶摘)
8. 閉 式

式 辞 (平成22年度)

本日、ここに御遺族の皆様、ご来賓の皆様、そして多数の市民の皆様をお迎えして、「青森市戦没者慰霊祭」を執り行うに当たり、先の大戦で亡くなられたすべての御霊に対し、青森市民を代表し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

今を去る六十五年前の先の大戦の終結に思いを巡らせば、往時の苦難と悲しみが昨日のことに蘇り、痛惜の念を禁じ得ません。

先の大戦において、いとしい家族を家郷に残しながら遠い戦いの地において、あるいは、故郷において、多くの尊い命が失われたことに思いを致すとき、改めて戦争の引き起こす数々の悲しみに心が痛みます。また、愛する御家族を失い、慟哭の日々を過ごされた御遺族の皆様方の御心情は察するに余りあり、今なお、沈痛の思いが胸に迫って参ります。

昭和20年7月28日、焼夷弾の投下による猛火は、青森市を包み、その9割余が灰燼に帰し、市の公会堂、長島小学校、古川小学校などが僅かに残り、当時は市内のどこからでも海が見えたと言われております。

青森市は、このような瓦礫の中から力強く立ち上がり、県都としての責任を担い、今や行政・経済・文化の中核である、中核都市に成長して参りました。

これもひとえに、御家族と故郷の安寧を念じながら無念にも亡くなられた方々の御加護と、郷土の復興のため一途に心を傾け、力を尽くしていただいた先人達の弛まぬ御努力の賜物であり、深甚なる敬意と感謝を捧げる次第であります。

歳月が経つにつれ、先の大戦の悲惨な様子が、人々の話題と記憶から次第に薄れて参りますことは否めませんが、現在、私たちが当たり前のように享受している平和と繁栄が、戦禍の中で散華された多くの同胞の尊い犠牲の上に成り立っているという事実を決して忘れてはなりません。

この平和な時代においてこそ、こうした史実を風化させることなく、次の世代に語り継いでいくことは、今を生きる私たちに課せられた重要な使命であり、今ここに改めて、永久の平和を心より願うものであります。

終わりに、戦没者各位の御霊がとこしえに安からんことを願い、また、在天の光として我がふるさと青森の繁栄を見守りたまうことを念じ、併せて、御遺族の皆様方の御健康と御多幸を祈念いたしまして、追悼のことばといたします。

平成22年7月28日 青森市長 鹿内 博

「空襲・戦災都市 青森」の碑



基本情報

所 在：青森市役所前
 住 所：青森県青森市中央1-22-5
 (JR青森駅 徒歩20分)
 連 絡 先：青森空襲を記録する会 017-777-6200
 建 立 者：青森戦災・空襲六〇周年事業実行委員会
 建 立 年：平成17年7月28日

碑 文

空襲・戦災都市 青森

青森市は、第二次世界大戦末期の、一九四五年（昭和二〇年）七月二十八日夜半、米軍B二九爆撃機六二機の空襲を受け、M七四焼夷弾八三〇〇〇発の投下により、市街地の約九〇パーセントを焼失し、一〇一八名もの尊い人命と財産を失いました。

また、同年七月一四・一五日と八月九・一〇日には、米軍艦載機により青函連絡船や県内の港湾施設、鉄道、飛行場などが攻撃を受け、一七三名の人命が失われ、合計一一九一名もの人々が犠牲になったと報告されていますが、大半の方々の氏名は、いまだ明らかになっていません。

あの悲惨で残酷な空襲・戦災から六〇年を経て、青森市は、廃墟から立ち上がった市民の努力により、みごとに復興しました。

しかし、今は、当時の惨状を止めるものではなく、人々の記憶からも薄れ、知らない世代が増え、風化しようとしています。

空襲・戦災から六〇年目に当たり、犠牲となられた方々のご冥福と平和を衷心より祈願し、青森市が戦災都市であることを歴史に止め、語り継ぐため、焼失した県立病院の跡地（現・市役所）に、この碑を建立いたしました。

二〇〇五年（平成一七年）七月二十八日
 六〇年目の空襲・戦災の日に

青森平和観音像



基本情報

所 在：青森市柳町通り
 住 所：青森県青森市長島1
 (JR青森駅 徒歩15分)
 連絡先：青森平和記念像管理団体 017-776-4455
 建 立 者：青森仏教会
 建 立 年：昭和39年7月28日

碑 文

平和の礎となった
 人々のために

説 明 文

青森平和観音像の由来

大東亜戦争終結の直前昭和二十年七月二十八日夜半の青森大空襲で街は一万五千余戸を焼失し市民約七百四十余名が戦災死した当時知事であった金井元彦氏はこの平和の礎となった人々の御霊を慰め且つ又県市民の復興と平和を護る心の據りどころとして観音像建立を発願した昭和二十二年企画し物資欠乏を克服して翌二十三年七月完成し場所を県市民の朝夕接し得る柳町国道十字路上に選り安置されたが市の復興は予想以上に早かったためその交通の要衝を避けて現在地に奉遷した
 御像は丈七尺青銅製で三国慶一氏の作である台座深く十勾観音経と戦災者の法名を秘蔵してある

昭和三十九年七月二十八日 誌

青森空襲犠牲者霊供養の鐘



基本情報

所 在：青森市三内霊園
 住 所：青森県青森市大字三内字沢部353
 (JR新青森駅 徒歩20分)
 連 絡 先：青森市三内霊園 017-766-0609
 寄 贈 者：新藤扶瑳次
 寄 贈 年：昭和58年8月1日

銘 文

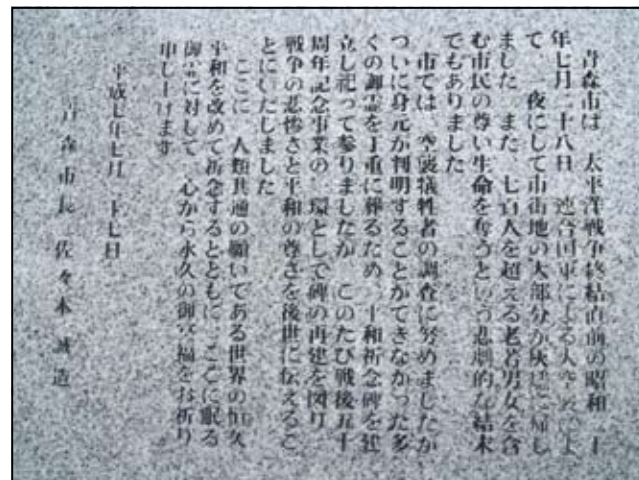
昭和二十年七月二十八日夜
 青森市空襲犠牲者慰霊供養

寄贈者 新藤扶瑳次
 昭和五十八年八月一日古稀祝

説 明 文

三内霊園には七百有余の貴い人命が
 昭和二十年七月二十八日夜アメリカB29の
 盲爆の犠牲になり今静かに眠っています

平和祈念碑



基本情報

所 在：青森市三内霊園
 住 所：青森県青森市大字三内字沢部353
 (JR新青森駅 徒歩20分)
 連絡先：青森市三内霊園 017-766-0609
 建 立 者：青森市
 建 立 年：平成7年7月27日

碑 文

平和を祈念して

青森市は、太平洋戦争終結直前の昭和二十年七月二十八日、連合国軍による大空襲によって、一夜にして市街地の大部分が灰燼に帰しました。また、七百人を超える老若男女を含む市民の尊い生命を奪うという悲劇的な結末でもありました。

市では、空襲犠牲者の調査に努めましたが、ついに身元が判明することが出来なかった多くの御霊を丁重に葬るため、平和祈念碑を建立し祀って参りましたが、このたび戦後五十周年記念事業の一環として碑の再建を図り戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えることにいたしました。

ここに、人類共通の願いである世界の恒久平和を改めて祈念するとともに、ここに眠る御霊に対して、心から永久のご冥福をお祈り申し上げます。

平成七年七月二十七日
 青森市長 佐々木 誠造